



～グラントワ開館10周年記念イベント

「きんさいデー」、「音楽の祝祭」盛大に終わる ～

グラントワ弦楽合奏団も、いろいろなコンサートに出演させていただき、貴重な経験をしました。本番に向け、皆さんいろいろな思いで練習を積み重ねてきました。

きんさいデー

グラントワ弦楽合奏団「ミニコンサート」
10.4(日) 大ホールホワイエ



まわりの神楽等の音が聞こえてくず、落ち着いた空間で音楽をゆったりときくことができました。 平田



打ち合わせがなかなかできなかった中で、十分できたのではないかと思います。特に、楽器体験には思った以上にお客さんに来ていただけたので、今後も続けていけたらと思います。 貝原

N響メンバーによるアンサンブルコンサート 10.10(土) 大ホール



グラントワ・ユースコールと共にアンコールで、「花は咲く」を共演しました。

立って演奏するスタイルが新鮮でした。息もピッタリ合っていて、さすがだと思いました。 平田

客として、まろ様のMCが面白すぎて感動でした。クラシック音楽になじみのないお客さんにたくさん来てほしかったです。演奏としては、ますますかな。 貝原

何よりなかなか出来ない経験ができました。言わずもがなですが、マロさんの手柔らかかったなあ…… 市田



終演後、N響の方々と記念撮影



県民・第九コンサートに向けて山陰フィルと合同練習の様
9.13(日) 松江にて

県民・第九コンサート
10.11(日) 大ホール



山陰フィルハーモニー管弦楽団の
団長でもあります、加藤さんより



山陰フィルハーモニー管弦楽団の
皆様と共にオーケストラで参加しました。

不遜な言い方もかもしれませんが、我が山陰フィルと我がグラントワ弦楽合奏団が一つのオーケストラとなって、今岡さんの溢れる思いに添えて熱い「第9」を一緒に演奏したことがとても誇らしく、松江に帰ってから私の胸の中にふつつつとドヤ顔ならぬドヤ思いが湧き上がります。特に男声が素晴らしく、厚く剛毅な合唱。それに対抗したオーケストラの弦楽器の厚みは、間違いなくグラントワ弦楽合奏団との合同で得られたものです。この1年、皆さんは同じ方向を向いてよく努力し、その結果また一回り大きくなりました。その健闘を称えるとともに、心から感謝します。「第9」には弾けない箇所がたくさんあります。が、フォルテシモだけでなくピアノの個所でも一つになれる瞬間も多くあります。皆さんが、山陰フィル、合唱と「交響する瞬間」をたくさん味わってくださったとしたら、それに勝る喜びはありません。1年間、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。 加藤



「愛しい人に近づきたくて、血のにじむような思いをして、足元まで辿り着き、いざ、抱きしめようと思ったら、あっという間に腕の中で消えてしまい、思い出だけが残った…」感じでした。本番は本当に「夢のような一瞬」でした。 原田

第九という超難関、なんとか無事に終わりました。本番には参加の方不参加の方ありましたが、この一年間、色々な場面で、皆さん様々な役割を果たされ、できることを懸命に取り組まれる姿に出会えたことが、私の中では一番でした。そして、この経験から何か新しい花が咲くに違いない!と密かに楽しみにしています。 原

第九の話聞いたときは、本番はものすごく先の事のような気がしていましたが、過ぎてみればあっという間でした。今回の演奏会はグラントワ開館10周年記念ということと、オーケストラということもあり、自分たちの演奏会とはまた違ったプレッシャーが全員にあったと思いますが、グラントワで活動している合奏団としての役割は果たせたのではないかと思います。私自身は反省点もありますが、山陰フィルに在籍していた頃と比べると少し楽に演奏が出来たように思いますし、今回は第九以外の本番も立て続けにあって大変でしたが何とか乗り切れたのは、やはり経験を積んだことで、自分で本番に向けての練習の組み立てが出来ようになったことにあるのではないかと思いますので、色々大変だったこともちゃんと自分の糧になっているのが分かったのは収穫だったと思います。最後に、久しぶりのオケはやっぱりすごい迫力でした。そしてとても楽しかったです。 渡部

なんだかジワジワと、演奏会2日後に感動がこみ上げて来ました。この一年間自問自答の繰り返し。ここができない、難しすぎる・・・と引き算していたらゼロになってしまう。もともとゼロからのスタートなんだからここが出来る、このフレーズが出来ると、一つずつ加えていくと、第一回目の第九チャレンジも、とても有り難く思ってきました。機会をくださって本当に有り難うございました。 斎藤



続けての本番、本当にお疲れ様でした。長期間&長時間で正直疲れはしましたが、メンバーの皆様にも励まして頂いたおかげで、充実した時を過ごせました。聴きに行って良かったですと言ってくれた方もあり、何とかかんとかでしたが参加できたことは本当に幸せでした。家族の協力も不可欠でした。好きな音楽を続けられる環境に感謝しながら、今後もがんばりたいと改めて思った本番の日々でした。 田中



グラントワの第九を終わって早くも1ヶ月を過ぎ耳についていた二調の空虚5度の記憶も薄れつつある。原稿を書くにあたり考えてみたら、ベートーヴェンには二短調の作品が意外に少ないことに気付いた。主な作品では二短調の曲は第九の他は32曲あるピアノソナタ中の第17番「テンペスト」だけである。ピアノソナタの方はシェークスピアの戯曲に啓発されたものであり中期のピアノソナタとしては珍しくレチタティーボをもっている。一方第九はシラーの「歓喜の頌」をテキストに用いたベートーヴェンの渾身の大作・力作となった。ベートーヴェンの頭には先人であるバッハの「シャコンヌ」を含むパルティータやモーツァルトの名作オペラ「ドン・ジョバンニ」などの二短調の響きが鳴っていたのではと思うのである。 田部

6月位から、やっと第九に参加することの大変さに気づき、それからは必死でした。迷いながら、申し訳なさを感じながら日々を送っていましたが、弾ける所が増えてくると喜びも増え、本番は最高に幸せでした。参加させていただき、皆様に感謝しています。ありがとうございました。 三浦

第九お疲れ様でした。今回はあの楽譜におしげずい参加しませんでした。皆さんの練習や演奏を聴いて、やっぱり参加すれば良かったと少し後悔したくらいとても素晴らしかったです。感動して涙が流れました。 中西



本番、超ビビリ過ぎて息が出来なくなり、演奏どころではなかったのに、学生時代の友達には「第九で初めてオーケストラになったんよ！」と自慢してごめんなさい。 迫田



松江で行われている第九に参加していますが、メンバーや指揮者が違うことでこんなにならりと変わるのかと思うくらい違った第九でした。私は今回の第九が好きでした。練習はなかなか時間がとれず、合同練習の回数も少なく、本番はどきどきでしたが。 貝原

今回は人生で初めての第九でした。1年近く取り組んできましたが、本番はあっという間に終わってしまった感じでした。個人的には1楽章がやや消化不良でしたが、4楽章では歌のパワーに後押しされてやり切ったかなと思います。また演奏したいと言いたいところですが、思っていた以上にハードだったので、また数年後に弾けたらいいなと思います(笑) 池淵

私にとって、『第九』を演奏することは、子どもの頃からの夢でした。その夢が、ソリスト豪華キャストでグラントワで叶い、本当に夢のようなひとときでした。曲の出来栄え、自分自身の演奏内容など、反省する点も沢山ありますが、それでも、大曲に挑戦して、合奏団として第九に向けて取り組んできたプロセスは合奏団の歴史の中で、のちのち貴重な財産となってゆくような気がしました。苦勞して練習して譜読みして。これはたった一度ではもったいないので、また「次回」があるといいなあと思います。いつか歌でも参加してみたい!と秘かに夢見ています。 林

10年前の開館記念コンサート。「弾けるところだけ弾いていれればいいよ。」と加藤さんに励まされ、山陰フィルに交じって初めてオケで演奏した時の感動は今でも忘れられません。それ以来、「いつかは第九を!」というのが夢でしたが、こんなにも早く実現できるとは思ってもいませんでした。思うように弾けなかった箇所も多く、演奏面では心残りもありましたが、祝祭オーケストラの一員としてGSEのメンバーと一緒にステージに立てたということが、今回、何よりも感慨深くうれしく思いました。グラントワと共に私たちも成長し、5年後10年後に再び第九が演奏できるといいなと思います。 有福



第九の楽譜を初めてみた時は、本当にこんなものが弾けるのだろうか不安でした。しかし、GSEの練習を重ねるにつれて、楽章やフレーズごとの意味合いや作りがわかり、少しずつ楽しくなっていました。また、9月に行われた山陰フィルとの合宿で、管楽器とあわせることで、第九のおもしろさ、交響曲のおもしろさを初めて実感しました。さらに、GSEのメンバーのひたむきに練習に取り組む姿勢も私のやる気を引き出してくださいました。仕事に追われて思うように練習ができず、不完全なまま本番に挑みましたが、第九の本番に参加できてとても幸せなひとときでした。今回の第九は、グラントワ10周年の記念事業でもあり、島根県民による演奏だったため、なおさらこの大切な事業に参加させていただけて、ラッキーだったと思います。また、機会があれば第九を演奏したいと思います。 大畑

何よりなかなか出来ない経験ができたということです。第九も今までフルオーケストラで弾く機会はほとんどなかったため、とても新鮮でした。ぜひまた交響曲や合唱付きの曲などもやってみてください! 市田

初オケ、本番で一度きりの全楽章通しての演奏は、不安とワクワク感、終わってみるとなんと短く感じたことでしょう。練習しても思うように弾けないとこだらけでしたが、「こここのところは・・・」と意気込んだところが、あー、心残りに・・・またいつの日か・・・ 阿知波